

社会資本総合整備計画（市街地整備） 中間評価書

平成28年3月15日

計画の名称	中井駅周辺整備計画			
計画の期間	平成24年度 ～ 平成28年度（5年間）	交付対象	新宿区	
計画の目標				

現在、西武新宿線中井駅南側と北側の移動経路は駅南口の東側を通る寺齊橋通りが担っている。しかし、設置されている踏切が通勤・通学時間帯には「開かずの踏切」となり、南北が分断された状況となる。そこで、南北自由通路を整備することにより、踏切遮断の総待ち時間減少や安全性の向上を図り、交通結節機能を高めるとともにバリアフリー化を推進する。また、当該区間には道路高架下の空間を利用した駅前広場整備を実施する。

計画の成果目標（定量的指標）

- ・公共交通の利便性向上により住民の定住維持
- ・安全・安心の確保のため踏切横断歩行者の減少

定量的指標の定義及び算定式

	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (事業完了時)							
・中井地区人口（住民基本台帳）	13,353人	—	13,353人	H31に13,700人の目標						
・踏切横断歩行者数	12,090人	—	11,190人	900人削減						
全体事業費	合計 (A+B+C)	1,698百万円	A	1,698百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

中間評価

○中間評価の実施体制、実施時期

中間評価の実施体制	中間評価の実施時期
中間評価に当っては、基幹事業が事業中であり、定量的指標への発現がないため、事業担当課による評価とした。 なお、自由通路事業については、新宿区の行政評価制度に基づき事業評価を毎年行っており、平成26年度は「事業継続が適当」との評価を得ている。	平成27年11月
	公表の方法
	区のホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A1 基幹事業				直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象						H24	H25	H26	H27	H28		
1-A-1	交通	一般	新宿区	直接	新宿区	中井駅地区都市交通システム整備事業	幅員約3.5m、延長約75m	新宿区						1,666	
1-A-2	交通	一般	新宿区	直接	新宿区	中井駅地区都市交通システム整備事業	駅前広場約5400㎡	新宿区						32	
合計													1,698		

B 関連社会資本整備事業

番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
合計													0		

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
----	----------------------	----

C 効果促進事業

番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
合計													0		

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
----	----------------------	----

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

・基幹事業である自由通路は現在工事中で、出来高率は平成26年度末現在約45%（事業費ベース）である。このため、定量的指標に対する効果の発現は見られない状況である。
（もう一つの基幹事業である駅前広場整備は、平成28年度に着手予定）

II 定量的指標の達成状況	指標①（中井駅周辺の定住人口の維持）	最終目標値	13,353人	目標値と実績値に差が出た要因	自由通路は工事中であるため、効果の発現は見られない。
		最終実績値			
	指標②（中井駅前踏切の歩行者横断数の減少）	最終目標値	11,190人	目標値と実績値に差が出た要因	自由通路は工事中であるため、効果の発現は見られない。
		最終実績値			
	指標③	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値			

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況
（必要に応じて記述）

・当事業は地元の悲願であり、中井駅周辺整備事業の核である自由通路工事の着工を契機に、完成後のまちの姿について行政と地元との意見交換が活発に行われるなど、地元の期待感はさらに高まっている。

3. 特記事項（今後の方針等）

・自由通路においては、平成28年度末の供用開始に向け、着実に工事を進めていく。
・本計画は、平成27年3月に「計画の期間」を変更したため、平成24年～26年の中間評価を行うものである。

(参考図面) 市街地整備

